

陸自の隊員は入隊して最初に配置された部隊を原隊と呼びます。多くの陸曹は原隊で退官するまで勤務しますが、幹部特に防大出身(B)、一般大卒出身(U)の幹部は原隊で当初の数年を勤務し、その後は組織の要求により指揮官・幕僚・教官等として全国の部隊・駐屯地で勤務します。私の原隊は青森県弘前市に駐屯する第39普通科連隊です。その後約40年の間に10数個の部隊・駐屯地で勤務し市ヶ谷で定年を迎えました。

原隊は、若さと体力はあるが部隊のことは右も左も解らないB・U幹部にとつて、最も思い出深く誇りに思う部隊です。幹部は生涯自学研鑽を求められますが、原隊においては先輩幹部による厳しくも温かい指導、同期生の切磋琢磨、陸曹による思いやりに満ちた育みにより一人前の初級幹部として成長して行きます。部隊とは何か、幹部は如何にあるべきか等を日々の訓練や勤務を通じて身をもって習得していきます。私は小隊長として山火事を消しているとき周りを火に囲まれてしま

ました。20数名の小隊員の目が私に注がれました。私には日本武尊皇子のよいうな草薙剣などあるはずもなく、小隊長に続けと命じ風上に向かって走り、事無きを得るといふ貴重な経験をしました。

部隊の精強性は保持する装備の優劣に左右されますが、部隊の訓練練度、団結・規律・士気、伝統等の無形の要素も極めて重要です。特に部隊の伝統は数年で交代する幹部ではなく、高度の専門的な知識・技能と豊富な経験を保持し同じ部隊に長く勤務している陸曹によって継承されます。私は初級幹部の頃成績が余り良くなく、外国留学・部外研修等で部隊を離れる機会がなかったため、各方面隊において指揮官を経験するという幸運に恵まれたことを負け惜しみかもしませんが、密かに誇りに思っています。

世界の軍隊の中でも極めて高い評価を得ている陸曹にとつて、原隊(中隊)は伝統を継承すると同時にすべてを受け入れてくれる家庭のようなものです。一方、全国規模で異動し、指揮の中核であり部隊団結の核心である幹部にとつて、原隊は遙か彼方に想う故郷のようなものです。私の原隊弘前第39普通科連隊は幹部としての出発地であると同時に妻と知り合った人生の記念すべき第二の故郷です。